

HUMAN TERRITORIES

# ヒューマン・テリトリー

インテリア—エクステリア—都市の人間心理

アルバート E. シェフレン

協力 ノーマン・アシュクラフト

桃木暁子・竹内久美子・日高敏隆 訳

産業図書

**HUMAN TERRITORIES**

how we behave in space-time

**Albert E. Schefflen**

*with*

**Norman Ashcraft**

Copyright © 1976 by Prentice-Hall, Inc.

Japanese translation rights arranged with Prentice-Hall, Inc.  
through Japan UNI Agency, Inc.

*Translated by* Akiko MOMOKI, Kumiko TAKEUCHI  
*and* Toshitaka HIDAKA

## アルバート・アインシュタインに捧ぐ

アインシュタインは、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの時代以来最大の概念変革の最も重要な代弁者である。彼の考えはわれわれの世界の見方を変えたと同時に、物理科学に大変革をもたらした。しかしわれわれがこの見方を人間の行動の研究に適用しようとするのは困難なことだった。それでも、われわれが自分たちの神話の中に埋もれてしまおうとするのでない限り、それはどうしても取組まねばならないことなのである。

## 訳者まえがき

この本はアルバート・シェフレンがノーマン・アシュクラフトの協力のもとに書いた“*Human Territories—how we behave in space-time*. Albert E. Schefflen with Norman Ashcraft, Prentice-Hall, Englewood Cliffs, New Jersey, 1976”を訳したものである。

本のできたいききつは著者のまえがきに書いてあるが、人間行動の研究でシェフレンと並んでよく知られたアダム・ケンドン (Adam Kendon) がずっと関わっている。

表題から推察すると、これはエドワード・ホールの“かくれた次元”の延長線の上にある研究のように思われるかもしれないが、決してそうではない。

著者はこの本で、人間のテリトリーというものは、何十センチとか何メートルとか計れるようなものではなく、その場の状況やイベントの進行に伴ってどんどん変化してゆくとともに、その“場”における役割とか立場によって変わる動的・相対的なものであることを強調している。

残念ながら、シェフレンはすでに死去しており、原出版社もシェフレンの経歴などをもう保存していないとのことである。そこで、訳者の一人(日高)の友人でまえがきにもでてくるグレン・マクブライド (Glen McBride, 現在オーストラリアのクイーンズランド大学教授、国際動物行動学カウンシル事務局長)に問い合わせたところ、彼はシェフレンの横顔を詳しく伝えてくれた。

それによると、グレン・マクブライドがアルバート・シェフレンに初めて出会ったのは、カリフォルニアにある、行動科学研究センター (Center for Advanced Studies in the Behavioral Sciences) でのことだった。以来、アルバート・シェフレンはグレン・マクブライドの良き友であり、グレンによればアルバートが彼をヒューマン・エソロジーへと導いてくれたと言う。当時、アルバート・

シェフレンは、レイ・バードウィステルとフィラデルフィアのイースト・ペンシルヴェニア精神医学研究所で共同研究をしていた。

1966-1967年の行動科学研究センターでの研究員生活を終えた後、アルバート・シェフレンは、ブロンクス州立病院およびアルバート・アインシュタイン医科大学共同の研究員としてブロンクスへ移った。ここでアルバート・シェフレンは、1980年8月14日、ガンでその61年の生涯をとじるまで、彼にとっての最後の数年間、最も親しくしていた同僚、アダム・ケンドンと共同研究を行なった。2人はブロンクスにある自宅で一緒に人々の行動を観察した。彼らはフォーメーションのモデルを開発したが、これは、パーソナル・スペースの研究に新しい刺激を与えるものだった。それは、従来のパーソナル・スペースのモデルが個人を基礎としていたのに対し、彼らのモデルが相互的なモデルだったからである。

アルバート・シェフレンは190cmを越える大男で、魅力的な、大変なお人好しだったが、また一面では实际的で、器用な男だった。それはきつと彼が、ペンシルヴェニアあたりの農家で育ったからだろう。

冒頭にアインシュタインを持出しているだけあって、この本の記述はたいへん理論的であるが、具体的な場面、たとえば自分が今住んでいる家、食事とき、来客時、マンション住まい、パーティーの席、映画館、行きつけのバー、団地、新興住宅と旧家、今流行の文化センターやシティー・ホール、球場、東京新宿の副都心や赤坂のアーク・ヒルズのような再開発地域等々の光景を思い浮かべながら読んでいくと、テリトリーのクレームとかホールド、サラウンドとか核とかゾーンといったちょっと聞き慣れない概念がすなおに理解でき、実際面での応用にもすぐ役立つだろう。

インテリアから建築、都市計画などにわたって関心をもつ人々に、この本が興味ぶかく、かつ理論的な参考になれば嬉しいと思う。

翻訳の一部を引受けて下さった元京都大学工学部大学院の野島直子さん、翻訳草稿段階でいろいろコメントをいただいたグラフィック・デザイナーの杉山久仁彦氏、出版にあたってたいへんお世話になった産業図書の方々にお礼を申上げる。

1989年4月

## 用語解

本文中にもあるように、この用語解はあくまで整理のためのものであるから、あまりこれにとられる必要はない。ざっと見てわかるとおり、この本には英語をそのまま片仮名書きにした用語が多い。それは、原著者がそれぞれの語の意味をかなり厳密に使い分けているため、無理に日本語に訳してかえって難解にしてしまうことを避けたからである（訳者）。（\*印はその項目がこの用語解にしていることを示す。）

**アクティビティー・ステージ (Activity Stage)** 参加者たちがある特定の場所にとどまり、ある特定の構成（フォーメーション）を保持（ホールド\*）している間に実行される、何らかの伝統的な人間の営みの一つの部分（ポジション）。たとえば、ディナー・パーティの参加者たちがダイニング・エリアのシートを取り、食べている間そこにとどまっている、というような場合で、その後その人々はリビング・ルームに席を移して、別のステージの会話を行なう。一つのステージはいくつかのフェーズから構成されているもので、それらのフェーズはまた、いくつかのステップから構成されている（フェーズおよびステップの項参照）。

**アセンブリー・スペース (Assembly Space)** ある特定の活動（アクティビティー）のために集まった（アセンブルした）何らかのグループの人々によって使われ、要求される、空間の増し分。

**"R" 権利 ("R"Rights)** あるテリトリーの周辺部（リージョン\*）に入り、使用する権利。

**"R" スペースまたは "R" ゾーン ("R" Space or "R" Zone)** リージョンを見

よ（小文字の r は、リージョンがさらに観客ゾーン、トランジット・ゾーンに分割される時の最も内側のサブゾーンを言うのに使われている。）

**e-フォーメーション**（“e”-Formation） 同じ方向に向き（オリентし）、横列、縦列、アーク、正方形などを形成するような具合に集まって（クラスターして）いる人々の配列（アレイ）。

**ウイズ関係性**または**“W”関係性**（With or “W” Relationship） 密接な関係をもつ（アフィリエートされた）、または一緒にいる人々によって通常示される配置（コンフィギュレーション）。このコンフィギュレーションは、一緒にクラスターしたり、共同動作または相互作用をしたり、平行的なポーズ（ポスチュア）や同調した動きを使ったり、またしばしば相互にタッチすることによって表明される。

**ウイズ権利**または**“W”権利**（With or “W” Right） 「ウイズ」関係または「ウイズ」関係性に入る権利。この権利は通常、アフィリエートされた人々にだけ与えられる。知らない人たちは、「ウイズ」スペースからある距離を保ち、違うオリエンテーションとスタンス\*を使い、視線や声をそこからはずしておく。

**ウイズ・スペース**または**“w”スペース**（With or “w” Space） 互いにウイズである人々の間のスペース。このスペースは腕や脚の配置（ブレスメント）によって範囲が定められることが多い（第5章参照）。

**h-フォーメーション**（“h”-Formation） 人々、家具類（ファニチュア）、またはビルト・スペースの一つのフォーメーションで、同心円的なゾーンを持ち、それゆえに動きの中心（ハブ（hub））またはそのスライスの形をとっているもの。同心円のゾーンはそれぞれ、特定の人が特定の役割のために使うためにゲーティング\*される。中心にいる1人のパフォーマーの回りの支持者や観客の輪は一つの例で、それはオープン・サイトで発生する。円形競技場やスタジアムは、h-フォーメーションが建造物化されている例である。

**“S”権利**（“S” Rights） あるテリトリーのリージョンの外側のポーションを使う権利。S権利はふつう、観客やカスタマーの権利である。

**“x”関係**（“x” Relation） いくつかの体の部分だけを含む、ノン・アフィリエーション状態の集まり（コンステレーション）。

**“X” 関係性 (“X” Relationship)** アフィリエーションでない (non-affiliation) ことを示す関係性。相対的な個人間距離と、違うオリエンテーション、アクティビティー、スタンスを使うことが特徴である。

**f-フォーメーション (“f”-Formation)** 2人以上の人または二つ以上のエレメント\*が互いに向き合っているような場合の、参加者たちの関係性。したがって、f-またはフェース・フォーメーションは、相互共通のインヴォルヴメントにおける二つ以上のe-フォーメーションまたはエレメントから成る。

**エリア (Area)** 家庭の部屋一つと大体同じサイズの、空間のポジション。イギリス系アメリカ人の伝統では、このスペースは約15×18(または22)平方フィートである。もっと小さくなって、伝統的な核一つのサイズ、すなわち約9×12フィートのこともある。

**エレメント (Element)** 何らかのより大きなフォーメーションの一要素(エレメント)または部分をなすe-フォーメーション。たとえば、もし人々が2列に向き合っていれば、各列はそれぞれ、そのクラスター全体の一つのエレメントである。バレードの時のバンドや行進グループのそれぞれは、バレードの一エレメントである。1人の人でも、もしその人がフォーメーションの一方の側を占め、1人だけである特定の方向にオリエン特しているなら、一つのエレメントになりうる。

**“O” 権利 (“O” Rights)** あるテリトリーの核の中心にあるオープン・スペースに入ってゆく権利。一つのエリア・サイズのテリトリーでは、この権利はある人に、会話をしている2人以上の人の間に立ったりセントラル・テーブルについたりすることを認める。もっと大きなテリトリーでは“O”権利は、コート、ステージ、アリーナ、セントラル・ホール、ロビー、タウン・スクエア、セントラル・パーク、あるいは共有地に入ることを認める。

**“o” スペース (“o” Space)** あるテリトリーの核の最も中心のゾーン。 “o” ゾーンは “p” ゾーンまたはメイン・パーティシペーションのゾーンの中にある。会話をしているクラスターの中では、たとえば、“o” ゾーンはソファと椅子の間のセントラル・オープン・スペースである。ダイニング・クラスターでは、“o” ゾーンはテーブルで占められている。もっと大きなテリトリーでは、“o” ゾーンはセントラル・ホール、ロビー、アリーナ、ステージ、コート、スクエア、またはパークである。



“o”ゾーン (“o” Zone) “o”スペースを見よ。

オリエンテーション・セグメント (Orientational Segment) 単一の人のオリエンテーションによってコマンドされる空間のセクター。

オリエンテーションの場 (Orientational Field) 1人の人または一つのグループのオリエンテーションによって、ある時間の間カバーされるスペースの全体。エレメントの場合、オリエンテーションの場は、その人または列になった人々の前にある。フェース・フォーメーションの場合、オリエンテーションの場は、本来、参加者たちの間にある。

オリエンテーションのホールド (Orientational Hold) 体または体の一部をオリエントさせ、あるアクションが完了するまでホールドするアクション。一つのオリエンテーションのホールドは多数の人々によってシェアされることがある。

核 (Nucleus) 核スペースおよび核フォーメーションを見よ。

核スペース (Nuclear Space) あるテリトリーの中の地理的な中心またはアクティビティーの中心をなすスペース。

核フォーメーション (Nuclear Formation) あるテリトリーの中心を占めるアセンブレイジまたはフォーメーション。核フォーメーションは、ある部屋、ハウス、ビルディング・コンプレックス、ブロック、ネイバーフッド、あるいはタウンの地理的な中心を占めたり、ステージ上のパフォーマーの場合のように、アクティビティーの中心を占めることもある。

関係 (Relation) この語は本書では特に、体の部分や体の部域の行動間の相互関係を言うのに使われている。したがって、参加者たちの体全体の間が発生する「関係性 (relationship)」の語とは区別される。

関係性のユニット (Unit of Relationship) 2人以上の人の全身の、シェアされたポジショニング。

関係のユニット (Unit of Relation) 2人以上の人が体の部域でシェアされたアクションを始める時はいつでもシェアされる、オリエンテーションその他の行動の全体。ユニットは最初の参加者がそのポジション\*を採用した時に始まり、最後の参加者がこれを放棄した時に終わる。

ギャザリング (Gathering) g-フォーメーションを見よ。

“q”スペースまたは“q”ゾーン (“q” Space or “q” Zone) ある核の“p”ゾ

ーンをちょうど越えたところ、すなわち“p”ゾーンの回りのスペース。したがって“q”ゾーンは、もしあるとすれば、核のゾーンの第3の、あるいは最も周辺ゾーンである。ダイニング・ルームでは、“q”スペースは椅子の後ろにあって、核のゾーンに出入りする余地となっている。

キュービット・スペース (Cubit Space) 約18×18×18インチのスペースで、体の一つの部域を使うのに十分なスペースである。古代イギリスの長さの単位キュービットは、約18インチであった。他の文化や、現代アメリカでは、キュービット・スペースは大体、たて、横、高さともに24インチ以上ある。

空間的・時間的ユニット (Space-time Unit) ある特定の時間の中に、ある特定のサイトまたは場所で起こる出来事の総体。

kスペース (“k” Space) 成人1人の体で占められる最小のスペースを表わす定数。このスペースは大体4立方キュービットまたは約1.5×1.5×6フィートである。

ゲーティング(Gating) あるテリトリーへの入口およびそこからの出口を選択的にコントロールするような、バリヤーと拘束のシステム。ゲーティングは、ある人々に、あるオケーションである目的のために、あるテリトリーにはいることを許す。

高度のコミットメント (High Commitment) 参加者たちが一つの共通の課題(タスク)にかかわっているか、あるいは参加者どうしがかわり合っているような関係性。高度のコミットメントのコンフィギュレーションでは、参加者たちはフォーカスの方へ体を乗り出したり近づいたりして、体の複数の部分をこのフォーカスにコミットしている。そうしてその人々は、聴いたり、見たり、タッチしたり、話しかけたり、そして一般的に体の複数の部域をそのアクティビティーにオリेंटする。このコンフィギュレーションは、強い親近関係、求愛、対決などの際に見られる。

コネクション (Connection) 2人以上の人の身体部分 (body parts) のアクティビティー間の関係のすべて。たとえば、タッチによる接触 (コンタクト)、言葉のとり交わり、相互共通の視線など。コネクションの特別のフォームとして「リンク」および「タイ」の項参照。

コ・プレゼンスまたはコ・プレゼントの関係性 (Co-presence or Co-present

- Relationship) 2人以上の人が同じエリアの中にロケーションをとってはいるが、互いにかかり合っていないような関係。たとえば、公共の乗物に乗っている乗客たちは、ただコ・プレゼントしているだけである。
- Co-point (Co-point) 2人以上の人が体のある部分を共通にオリентさせ、そうすることによって、オブザベーションあるいはアクションの同じフォーカスに向くような関係。一つのCo-point・シーケンスとは、共通のいくつかのアクションの継続である。たとえば、2人の人が第三者を見て、その人に合図し、それから同時に呼びかける、というような場合である。
- Context (Context) ある特定のイベントのコンテキストとは、そのイベントが発生する場となるより大きな複数のイベントの総合(totality)をいう。したがってコンテキストとは、いくつかのイベントのシステムであり、物理的なセッティングや環境(environment)のことではない。
- Complex (Complex) 共通の入口、ロビー、あるいは物を保管するためのエリアを伴う、複数の住宅向きのベース\*のセット。たとえばアパートメント・ハウス。
- Site (Site) ある人間のイベントが発生する、ビルドされていないスペース。
- Site-event (Site-event) あるサイトでのアクティビティーのシーケンスおよびそのサイトそれ自体の両方の範囲を定める、空間的・時間的概念構成。
- Site-occasion (Site-occasion) ある特定のサイトが占められ使われている時をいう。
- Site Form (Site Form) あるサイトのロケーションや形、レイアウトのこと。
- Surround (Surround) あるテリトリーのリージョンまたはテリトリー全体を、直接とりかこむスペースをいう一般的な語である。
- g-Formation ("g"-Formation) 人々あるいは家具類(ファニッシング)の一つのフォーメーションで、複数のアクティビティー中心を持つ。したがって、g-フォーメーションまたは集まり(ギャザリング)は、複数のエレメントまたはフェース・フォーメーションから構成されている。よ

くある例は、いくつかの会話が、そのエリアの違うポジションで同時に発生しているカクテル・パーティである。

スタンス(Stance) 体のオリエンテーション、セットまたは表現、そして四肢のポジショニングなど、体の部域または体全体のポスチュアのフォーム。

ステージ(Stage) アクティビティー・ステージを見よ。

ステップ(Step) ある人間のアクティビティーのあるフェーズで発生する、行動の短いシーケンス。一つのステップの持続は、ある体の部域のオリエンテーションやスタンスを、アクティビティーのそのステップが完了してしまふまでホールドすることによってマークされる。

スポット(Spot) 直径数インチのマイクロ・テリトリー。あるスポットは体の表面、たとえば目、額、口、手のひらなどにロケートされる。あるスポットは、人々が視線や声をダイレクトする想像上のフォーカスである。あるスポットは、ファーニチュアの上に現われ、物を保管するのに使われる。

セクター(Sector) 直線的あるいは非同心的テリトリーにおける区切られた1つのポジション。

セグメント(Segment) アクティビティーの空間的全体の、またはサブシーケンスの1つのポジション。

セット・アップ(Set-up) ファーニチュアのグルーピングまたはクラスター。

“Z”関係性(“Z” Relationship) あるテリトリーを占める人々と、通常は排除されている人々との間にある関係性。

相互的オリエンテーション(Mutual Orientation) 2人以上の人の体の部分、部域あるいは全身が互いの方に向けられているような、オリエンテーションの関係性。

ゾーン(Zone) 同心円的にオーガナイズされたテリトリーのスペースの一つ。 —

タイ(Tie) 人々が、自分たちが一緒であることを示すような、体の部分または体の部域の間のコネクションのフォーム。タイは共同動作的(co-actional) 行動であるが、リンク\*は相互作用的(interactive) 行動である。

ダイアド(Dyad) 一緒(with each other)であることがすぐにわかるようなベアー。共通の動作をしたり、互いに高度にインヴォルヴされていて同じロケーションをシェアしている。

“w”関係(“w” relation) 参加者たちの体の部域のどれかだけによってシェア

される「ウイズ」関係。

チャンネル(Channel) 互いに向き合って相互作用にかかわっている、2人以上の人の体の間にあるスペース。

“T” 権利 (“T” Right) あるテリトリーの周辺を通過する権利。大きなテリトリーの場合は、パブリック・トランジットのためのパスは、テリトリーの中心を突っ切るかもしれない。この場合、“T”権利はそのテリトリー自体を通過することを認める。

“t” スペースまたは “t” ゾーン (“t”-Space or “t”-Zone) あるテリトリーの中での見知らぬ人々が通過することを許されているポジション、または、同心円のテリトリーの場合にはそのようなゾーン。

ディスアソシエーション (Disassociation) そこに居合わせる人々が、かかわり合いや共同動作あるいは相互作用を積極的に避けるような関係性の状態。

低度のコミットメント (Low Commitment) 当事者が互いに、高度にはインヴォルヴやアフィリエイトされていないような関係性の状態。低度のコミットメントのコンフィギュレーションは、広いインターパーソナル・ディスタンス (個人間距離) を使い、違う方向にオリエントし、わずかばかりのコネクションしか形成せず、腕や脚を曲げたり組んだりする、というようなことを特徴とする。

テリトリー(Territory) ある時間の間、個人やグループによって要求され、占められ、使われる、区切られたスペース。

テリトリー行動 (Territorial Behavior) あるテリトリーを要求したり、区切ったり、尊重したり、防衛したり、あるいはそれ以外の方法でテリトリーの範囲を定めようとする行動のすべて。

テリトリーの間 (Territorial Field) あるテリトリーのフォームとディメンションを時間を追って記述する、時間的・空間的概念構成 (第 12 章参照)。

テリトリーのマニピュレーション (Territorial Manipulation) あるテリトリーのフォーム、境界、オーナーシップ、または権利を変えようとする行動のすべて。

ノン・ウイズネス (Non-witness) コ・プレセンスに同じ。

場所のひずみ (Place Distortion) そこで発生するアクティビティを崩壊させたり変化させたりするような、テリトリーの習慣的セッティング、形、

またはファーニッシングの変化。

ハブ (hub) h-フォーメーションを見よ。

“P” 権利 (“P” Rights) 核の第2のゾーンに入り、それを使用する権利。“p”ゾーンは、会話や演劇的パフォーマンスのような、フェース・トゥ・フェース (face to face) またはハブ・タイプのフォーメーションで中心の参加者たちによって使われるそのゾーンである。ビルト・テリトリー\*においては、“p”ゾーンは、メインの椅子、部屋、ビルディング、ブロック、またはネイバーフードのゾーンである。“P”権利はしたがって、メインの参加者またはパフォーマンスの権利と大体同じである。

“p”スペースまたは“p”ゾーン (“p” Space or “p” Zone) 中心のオープン・ゾーンを直接とりかこむ、核の第2のスペース。

ビルト・テリトリー (Built Territory) フェンス、壁、その他の構造物で囲まれたスペースで、要求され防衛されるスペースのすべて。

“v”関係 (“v” Relation) 体の一つか二つの部域だけが向かい合わせになっているような、2人以上の人の間の相互的な関係。

“V”関係性 (“V” Relationship) 参加者たちが互いにオリентし、相互作用しているような、全身の相互的な関係性。

“V”権利 (“V” Right) 別の人またはグループとフェース・トゥ・フェース関係に入る権利。この権利は通常、知り合い、友人、親類、商売仲間に与えられるが、よそ者には与えられない。

“V”スペース (“V” Space) 互いにオリентしている人々間のスペース。

“v”スペース (“v” Space) 互いに向き合っている体の部域間のスペース。

フェーズ (Phase) いくつかのアクティヴィティーがシークエンスをなして実行される時間。したがって、フェーズはあるステージの中での、アクティヴィティーのセグメントである。そして、フェーズはまた、いくつかのステップから構成されている。一つのフェーズの間、同じ一般的なオリエンテーションとポジション\*が参加者たちによってホールドされる。

フェース・フォーメーション (Face Formation) f-フォーメーションを見よ。

フレーム (Frame) 空間的・時間的な境界。空間的にはフレームは、人々または椅子などの集まり (アセンブリー) によって形成され、その中で人間のあるアクティヴィティーが起こる。時間的には、フレームは参加者たちが

アクティビティーのあるフェーズまたはステージを始めた時に開始され、その人々がそのアクティビティーを完了して何か他のことに移った時終了する。

平行な、または一致したポストチュア (Parallel or Congruent Postures) 数人の人々のポストチュアまたはスタンスの関係で、すべての人が、体と四肢を同じやり方でホールドしているような場合。

閉鎖的相互オリエンテーション (Closed Mutual Orientation) 互いに高度にインヴォルヴされている2人以上の人の間の関係性。その人々は他の人々を無視し、自分の体を使って自分たちの相互作用のスペースから他の人々を排除しようとする。

ベース (Base) ある特定の社会的グループによってホールドされ、その人々のオペレーションのための根拠地として使われる、いくつかのエリアの複合体。住宅や小規模な小売店がその例である。

ポイント (Point) ある体の部分が、ある人、グループまたはフォーカスに向けてオリエントされ、ダイレクトされ、またはポイントされることによって行なわれるマイクロな行動。

ポイント行動 (Point Behavior) ポイントに同じ。

ポイント・ユニット (Point Unit) 認識しうる行動ユニットを形成するポイント行動のシークエンス。このポイント・ユニットもまた、オリエントされ、それによって小さな一時的なテリトリーの範囲を定める。

ポイント・ユニットのレベル (Level of Point Units) 体の単一の部分、すなわち顔、目、口、手、足など、の行動を見たり聞いたりできる、観察できるレベル。ポイント・ユニットとは、体の一つの部分によってパフォーマンスされる行動の一つのシークエンスであり、このパフォーマンスで使われるスペースである。

ポジショナル・ユニットまたはポジション (Positional Unit or Position) あるシークエンスのポイント行動が実行される間、ある体の部域のオリエンテーションはホールドされる。全体としてのポジショナル・ユニットとは、これらの行動のコンプレックスと、そのオリエンテーションおよびその行動がプロジェクトされるスペースの複合である。

ポジショナル・ユニットのレベル (Level of Positional Units) 体の一つの部

域（または、もし体の二つ以上の部域が集的に同じオリエンテーションや行動のシーケンスに使われている場合は二つ以上の部域）の行動を観察できるレベル。

**ポラリティー (Polarity)** グループ・オリエンテーションまたはブレース・アレンジメントの指向性、中心性、または求心的ポラリティーの場合は、人々、あるいはファニチュア・ユニット、部屋、ビルディングなどは、中心の“o”スペースに面するようにオリエントされる。周辺性、あるいは遠心的ポラリティーの場合は、これらのユニットは、キッチンやショップでそうであるように、中心を離れたところを向く。サブユニットも、公会堂でそうであるように、ビルト・テリトリーの前面または背面に面する。

**ホールド (Hold)** 本書では「ホールド」の語は、名詞として、ある時間の間維持され、あるいは保たれる、体の部分の相互共通のかわり合いをいうのに使われている。したがって、手の接触を保ったり、相互に視線を合わせつづけることは、ホールドである。

**メタテリトリアル・アクティビティー (Meta-territorial Activity)** テリトリーの計画をたてたり、人と交渉したり、マッピングしたり、記述したりというようなアクティビティー、および、テリトリーそのものでなくテリトリアリティーに関するアクティビティー。

**モジュール (Module)** 1列になったロケーション<sup>\*</sup>、たとえば1列になったシート、部屋、街路に面する連結住宅、メイン・ハイウェイに沿ったシティ・ブロックなど、から成る区切られた空間の増し分。

**“u” 関係 (“u” Relation)** 2人以上の人が、体の部域を共通にオリエントさせ共同動作する関係。

**“U” 関係性 (“U” Relationship)** 2人以上の人が全身を共通にオリエントさせ、その人々のオリエンテーションの対象に向かって協力して共同動作するような関係性。

**“U” 権利 (“U” Right)** 別の人の近くにロケーションをとり、その人のオリエンテーションをシェアし、その人と共同動作する権利。この権利は、通常、旅行者仲間や観客仲間に与えられる。

**“u” スペース (“u” Space)** 同時的、または共通のオリエンテーションによってコマンドされるスペース。共同動作の行動はこのスペースにプロジェク



トされる。

リージョン(Region) あるテリトリーの周辺のスペースまたはゾーン。すなわち核に対して周辺にあるスペースまたはゾーン。リージョンは内側のゾーンr(コーチ、補欠選手、レフェリー、アドヴァイザー、その他の後援者たちにロケーションを与える)と、観客のための外側のゾーンs、そして時によっては、通過、ゲートキーパー、乗物のための3番目のもっと周辺のゾーンtにさらに分割されることがある。

リンク(Link) 相互作用の最中に2人以上の人の目、口、手、その他の体の部分を連動させるような相互共通の行動のユニット。たとえば視線を交わしたり、手のひらを相互共通にディスプレイしたり、というようなことである。リンクは相互作用によって形成されるものであり、タイからは区別される(タイの項参照)。両方とも接続のフォームの一つである。

ロケーション(Location) 時間的にあらゆる瞬間に、1人の人または一つのダイアードによって占められるスペース。このスペースは、床または地面のエリアの約1平方ヤードであることが多いが、この大きさは、アクティビティー、関係性、密度、文化、その他のコンテキストの状態によって変わる。

“Y”関係性(“Y” Relationship) あるテリトリーの違うゾーンを占め、それによって、その時点で違うステータスを持っている人々の間にある関係性。Y関係性は、パフォーマーと観客、セールスマンとカスタマーの間などに発生する。

“Y”権利(“Y” Rights) あるテリトリーの周辺ゾーンまたはセクターに入る権利で、同時により中心の、または核のポジションをホールドしている人々との関係をもつ権利。

### 要約すれば

- A, B, C, Dの文字はテリトリーのオーガニゼーションのレベルをコードする。  
 E, F, G, H, Iの文字は、人間のフォーメーションまたはクラスターの習慣的なタイプをコードする。  
 K, L, M, Nの文字は、テリトリーの増し分をコードする。

O, P, Q, R, S, Tの文字は、あるテリトリーのゾーンまたはセクターをコードする。

U, V, W, X, Y, Zの文字は、あるグループの参加者間の関係性のタイプをコードする。

## 目 次

訳者まえがき	3
用語解	5
まえがき	21
謝 辞	25

序：テリトリーとは何か	1
-------------	---

## 第I部 オリエンテーションのテリトリー

第1章	ポイントとスポット	11
第2章	コネクションとジャンクション	25
第3章	ポジションとオリエンテーション・セグメント	36
第4章	シェアされた相互的關係	51
第5章	ウイズ・スペースとノン・ウイズ・スペース	65
第6章	関係性とオリエンテーションの場	76

## 第II部 フォーメーションとサイト

第7章	ソロ・サイトまたはソロ・ロケーション	89
第8章	ダイアード	102
第9章	エレメントとモジュール	109
第10章	フェース・フォーメーションと核	120
第11章	コンパインされたフォーメーション	131

第12章	テリトリーの場	140
------	---------	-----

### 第Ⅲ部 ビルト・テリトリー

第13章	ファーニッシングとセット・アップ	155
第14章	ビルト・エリアまたは部屋	166
第15章	プロパティー	176
第16章	ラージ・テリトリー	182

### 第Ⅳ部 テリトリーのフォームの使い方

第17章	ビルト・スペースのオーガニゼーション	189
第18章	サイト・オケージョン	197
第19章	保有権と管轄権	202
第20章	アクセスとモビリティ	206
第21章	テリトリアル・レギュレーション	210

### 第Ⅴ部 テリトリーの乱れ

第22章	習慣的でないテリトリーのフォーム	217
第23章	場所のひずみ	222
第24章	ハイアラーキーにおける不調和	227

参考文献	233
------	-----

## まえがき

### テリトリー観の発祥

1903年、イギリスの鳥類学者ハワード（Howard）は、鳥はハワードが「テリトリー（territory＝なわばり）」と呼んだ小さな空間の範囲を定めて（defineして）使うことに気がついた。1960年代までに、すでに多くの生物学者が多種の動物についてテリトリーのことを記述していたが\*、その後約10年間に、何人かの著者たちが人間のテリトリーについて書くようになった。

テリトリーに対する関心が急速に広まるにつれて、科学にゆっくりとした変革が起こった。この変革はライブニッツとマクスウェルまでたどることができるが、それに形と方向を与えたのはアインシュタインであった。そしてアインシュタイン以来、場というアプローチ（研究方法）が諸科学に発達してきたのである。ハワードによるテリトリーの発見も、科学史におけるこの重要な転換期を反映したものだたとみなすことができる。

今世紀になってから、場の概念は、サイバネティクスや一般システム理論などとして次々に新しく形を変えながら保たれてきた。そのような研究は、空間的・時間的枠組（frameworks）、すなわちテリトリアリティー（territoriality＝なわばり性）に対する関心を促した。そして、テリトリアリティーに対するこの関心の高まりが、空間的・時間的観察に基づく諸科学の発達に影響し、その発達を助長したのかもしれない。いずれにしても、テリトリアリティーの科学は、この新しい考え方の中で育ってきたものであり、テリトリアリティーについてのストーリーはまた、われわれの世界についての新しい考え方のストーリー

\* ハワード(Howard 1903)；ウィン・エドワーズ(Wynne-Edwards 1962)；マクブライド(McBride 1964)；ローレンツ (Lorenz 1966)。

一なのである。

そうだとすると、空間的・時間的という概念構成がやっとな最近になって人間自身の研究に適用されるようになったのは驚くべきことである。事実、今でも、人間のテリトリアリティーの科学は最も発達していない。人間は、自分自身の行動についてはラディカルでなじみのない見方を好まないらしい。

私がテリトリーにかかわるようになったのは、1960年代に、人類学者のレイ・バードウィステル (Ray Birdwhistell) と共に小さい集団におけるコミュニケーションを研究した時である。レイはいつも、われわれが観察している行動 (behavior) のテリトリーという側面を指摘したものだ。人類学者のエドワード・ホール (Edward Hall) もよく訪ねて来て、個人間空間 (interpersonal space) ということについて、それをどうしたら研究できるかを話し合った。われわれは、スペーシング行動とコミュニケーション行動との間に何らかの相関関係があるのではないかということがわかっていた。

1966年に私は、行動科学研究センター (Center for Advanced Studies in the Behavioral Sciences) の特別研究員として、カリフォルニアに行った。その年、2人の動物行動学者、グレン・マクブライド (Glen McBride) とチャールズ・コーフマン (Charles Kaufman)、も同センターにいた。われわれは、何か月にもわたって動物のテリトリーについて話し合い、自分自身で動いてスペーシングする動物のフィルムを見た。同じ年に、サンフランシスコで過激な人種対立が始まった。精神医学者のジョリー・ウェスト (Jolie West) と私は、何が起こったのかに興味を持つようになった。動物の間では、テリトリアリティーの崩壊は暴力につながる。だからたぶん、犯罪、殺人、暴動などの問題にはテリトリアリティーの崩壊も関係しているだろう。たしかに、サンフランシスコのような都市においては、テリトリアリティーは崩壊している。

1967年、私はニューヨークに行った。ブロンクス州立病院とアルバート・アインシュタイン医科大学のイズラエル・ツヴァーリング (Israel Zwerling) ならびに、ジュエイッシュ・ファミリー・サービス (Jewish Family Service) のフランシズ・ビートマン (Frances Beatman) とスタンフォード・シャーマン (Stanford Sherman) が、都市のテリトリアリティーの研究に興味があると言っていたからだった。国立精神衛生研究所 (National Institute of Mental Health) の都市研究部門 (The Metropolitan Studies Section) が、都市のテ

リトリアリティの研究を援助してくれた。そうしてわれわれのグループは、アパートメント、街路 (streets)、ネイバーフッド (neighborhoods) をテリトリーとして調査しに行った。

われわれのテリトリアリティの研究は、理論的に深刻な問題にいくつもぶつかった。人間のテリトリアリティ、特に可動集団と非固定空間についてはほとんど知られていなかったからである。心理学者のアダム・ケンドン (Adam Kendon) と私は、公共の場所ならびにプライベートな家にアSEMBLしたグループを映画に撮り、ビデオテープに記録して検討した。1973年までにわれわれは、観察結果をある程度整理することができた。後にこの仕事には、ロバート・マクミラン (Robert McMillan)、そして心理学の大学院生が加わった。1974年、ケendonはオーストラリアに渡り、この研究テーマについては、共同研究者はそれぞれ独自に成果を発表することで合意した。

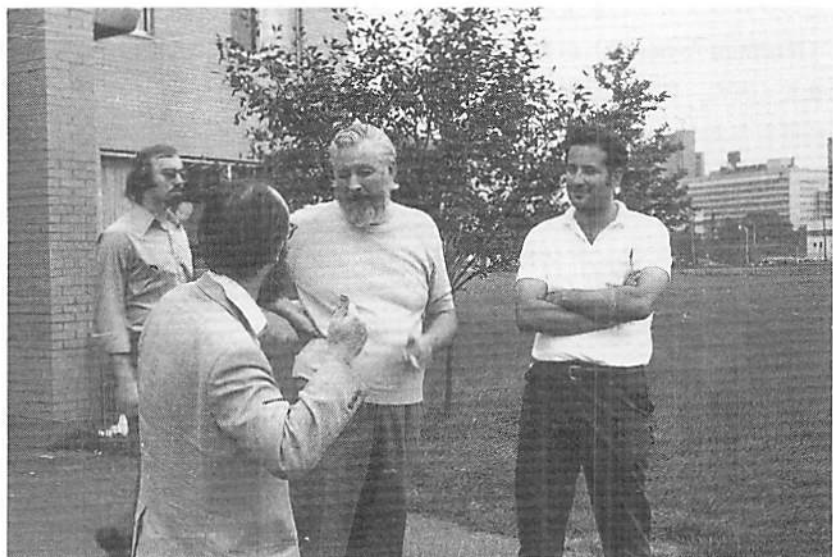
### この本を作るにあたっての共同作業

このプロジェクトの最後の数年間には、人類学者のノーマン・アシュクラフト (Norman Ashcraft) が兼任で加わり、われわれの仕事に人類学的展望を持たせてくれた。彼がケendonと私 (シェフレン) の展開した基本的なアイデアに形を与えるのに加わったこともあった。アシュクラフトは、実際に二つの方法で、われわれの仕事に参加した。彼は、自分の受けた専門教育に妨げられることなく人間の行動を観察することができたし、コンテキストについて良いセンスを持っている。ケendonが去った時、アシュクラフトは、私と共に、最初の原稿を完成させた。アシュクラフトは、本書の基本構成を作り上げる際に参加していなかったので、共著者となることを辞退したため、著者はシェフレンとなり、ノーマン・アシュクラフトは協力者ということにした。

本書を書くにあたっては、重苦しくてしばしば読みにくい教科書にならないようにしたつもりである。私の前著 "*Body, Language and Social Order*" で使われている写真の版を借用し、テキストを読みやすくするように試みた。また、質の良い写真を会話調の文体と組み合わせるようにした。

われわれは写真と文章とを織り交ぜることによって、人間の行動の大まかな概略と枠組を描いてみた。それはどちらかという、額縁とそのコンフィギュ

レーションだけが展示されている美術の展覧会のようなものである。<sup>フォルム</sup>形が与えられた絵があれば、人はそれに自分がすでに知っている内容を描き入れることができるはずなので、細部の描写はあまりしていない。



アダム・ケンドン、アルバート・シェフレン(中央)およびマイケル・ウォルフ  
(写真はグレン・マクブライドの厚意による)



## 謝 辞

本書の大部分の構想は、アダム・ケンドンが練り上げたものである。また、ヴィクター・ジョシア (Victor Gioscia)、ロン・グッドリッチ (Ron Goodrich)、ロバート・マクミラン、クラレンス・ロビンス (Clarence Robins)、ジョセフ・シェーファー (Joseph Schaeffer)、およびランディー・シャーマン (Randy Sherman) も価値ある貢献をしてくれた。ケネス・ゴスポディノフ (Kenneth Gospodinoff) は草稿の作成をはじめ、いろいろな面で援助してくれた。ボニー・ルカント (Bonnie LeCount) は、草稿をタイプしてくれただけでなく、われわれの仕事を我慢強くユーモアを持って助けてくれた。

第8章の構想と写真は、イーヴ・ニューマン (Eve Neuman) の貢献である。その他の写真は、いくつかの例外を除いてすべてスタン・ドゥワーキン (Stan Dworkin) とジョン A. サージェニアン (John A. Sergenian) が撮影したものである。本文中、他の写真が用いられている場合にのみ、その旨を明記した。図はジーン・ブーザ (Jeanne Bouza) の提供によるものである。

他にも、われわれの研究室以外でこの仕事の完成を助けてくれた多くの方々に謝意を表したい。この研究プロジェクトの大部分に対し、国立精神衛生研究所都市研究部門から研究費の助成を受けた (助成番号 RO 1 MH 15977 および RO 1 MH 18162)。同部門のエリオット・リーボウ (Elliot Liebow)、ジェーン・シャルマン (Jane Schulman)、マシュー・デュモン (Matthew Dumont)、モーリー・リーバーマン (Maury Lieberman) ならびにエドワード・ホールからは個人的な支援を受けた。ヴァン・アメリカン財団 (The Van Amerigen Foundation) からもわれわれの研究に対し資金援助を受けた。同財団のリリー・オーチンクロス (Lilly Auchincloss)、とホッド・グレイ (Hod Gray) は、われわれの研究に個人的に関心を示してくれた。ジューイッシュ・ファミリー・

サービスのフランシーズ・ビートマンならびにスタンフォード・シャーマンは常に励ましとなってくれた。

アルバート・アインシュタイン医科大学は、われわれが研究費の援助を受けることを承認し、ブロンクス精神医学センターはわれわれの立場を守ってくれた。そして、われわれがこまごました事務から解放されて研究できるように力づけ、われわれの要求をうまくとりはからってくれたのは、同大学および同センターのイズラエル・ツヴァーリングであった。